

(別記)

令和8年度早川町地域農業再生協議会水田収益力強化ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

当該地域は、水田面積1.5ha（令和7年度）であり、うち主食用米の水稲作付面積は1.0haである。転作作物に関しては、大豆の面積が最も多く、0.5haとなっている。

主食用米の作付面積が減少する中で、他の作物への転換も進んでおらず、水田面積の維持を、早急に図っていく必要がある。

しかしながら、農家人口の高齢化及び減少も顕著であり、不作付け地の拡大が進んでいる。こうした中、水稲作付面積の維持が課題となっている。

2 高収益作物の導入や転換作物等の付加価値の向上等による収益力強化に向けた産地としての取組方針・目標

農家人口の高齢化及び減少が顕著であり、不作付け地の拡大が進んでいるが、「レモンの香」の栽培を推進し町の特産品の一つにしていきたい。

3 畑地化を含めた水田の有効利用に向けた産地としての取組方針・目標

早川集落を中心とした「味噌作り復活祭」が行われ、町民も回数を重ねるたびに大豆の栽培や味噌作りに関心を持つようになってきた。

今後も集落支援員及び地域おこし協力隊を中心に、不作付け地となっている場所を開拓しながら、大豆の栽培面積を拡大していきたい。

4 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

獣害対策として、町の有害鳥獣被害防止事業を活用し柵等の設置を行い、作付面積の維持に取り組む。

(2) 備蓄米

(3) 非主食用米

ア 飼料用米

イ 米粉用米

ウ 新市場開拓用米

エ WCS 用稲

オ 加工用米

(4) 麦、大豆、飼料作物

大豆については、町内の方を対象に講習会を実施することで、技術的な面をフォローアップし、品質の向上に努める。

また、町内の早川地区において令和元年度から令和5年度まで開催されていた「味噌作り復活祭」の影響により住民の大豆の作付において意欲が高まった。

(5) そば、なたね

(6) 地力増進作物

(7) 高収益作物

5 作物ごとの作付予定面積等 ~ **8 産地交付金の活用方法の明細**

別紙のとおり

※ 農業再生協議会の構成員一覧（会員名簿）を添付してください。